

平成21年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	147370039	事業の開始年月日	平成12年12月1日	
		指定年月日	平成12年1月12日	
法人名	社会福祉法人 みやび会			
事業所名	グループホームやすらぎの郷			
所在地	(227-0054) 横浜市青葉区しらとり台3 - 13			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成22年3月8日	評価結果 市町村受理日	未提出	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1473700399&SCD=320>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-4 ケ'双ファースト 3階		
訪問調査日	平成22年3月18日	評価機関 評価決定日	平成22年5月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

医療法人の経営グループに属し、医療機関との強い連携が特徴です。透析や胃ろう、点滴にも対応しています。ホームは住宅街の中にあり家庭的な雰囲気や大事にし、職員は明るく、利用者との穏やかな関係を大事にしています。施設長は職員に利用者の気持ちに配慮した言葉掛けを指導しています。また、介護計画更新時には、すべての職員が利用者全員の現状の評価書を作成して、介護計画が利用者の状況に沿ったものになるようにしています。この取り組みは、同時に職員の能力向上、チームワークの維持向上にもなっています。

工夫すべき点では、施設の理念やホームの行事等の内容を利用者とその家族や、地域に理解してもらう情報の発信が少ないようです。パンフレットやホームの掲示版、「ホームのおたより」等を工夫することが期待されます。建物は、平屋で3ヶ所に出入り口があるので比較的 안전한 構造ですが、消防署との連携による火事や大災害を想定した避難訓練の実施や備蓄の充実等を図ると、更なるサービスの向上につながると思われます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームやすらぎの郷
ユニット名	やすらぎの郷

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常日頃から念頭において業務を行うのは難儀だが役割を考えながら意識付けていくために日々の話し合いを実施につなげていくことが大切だと思う。	「地域における認知症介護の啓発、啓蒙に役割を担う」旨の言葉が理念に追加され重要事項説明書に書かれています。また、基本方針には「利用者本位のケアを行う」「利用者が地域住民の一員として生活出来るよう努める」など記載されています。	日常的に利用者やその家族が確認出来るように、また、地域の方にも理念を理解してもらう為に、パンフレットや施設内の掲示に一層の改善と工夫が期待されます。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や地域の掃除当番などは積極的に行っている。もっと地域との関わりをもっと持っていけるように交流を積極的に行いたい。	地域との付き合いは、自治会の夏祭り等に参加したり、敬老の日にはお祝いの品をもらうなど、ご近所との関わりを大事にしています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や接し方などができていないと思われる。日常支援が基本であるが、もっと本人のことを理解し、何か出来るかを考えていく必要がある。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方々の意見はとても大切になってくるので、いま以上に取り組みを充実させ、サービスの向上に具体的に活かしていく必要があると考える。	利用者とその家族、自治会、民生委員、包括支援センター等から参加があり、例えば、防災設備や事故事例等について意見を聞いています。委員からの意見をサービスの向上に反映する姿勢があります。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横浜市からは定期的に情報提供は受けているが、区との関係性があまり無いように思えるので、今後は充実させる必要があると考える。	代表者は横浜市のグループホームの連絡会会長を務め、市の研修会の講師を引き受けるなど、市との協力関係があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>拘束するようなケアは行なってはいない。しかし、今後も含めて安全を確保しつつ拘束のない安心し苦痛のない暮らしの提供をしていきたい。</p>	<p>代表者が横浜市の「拘束なき介護推進委員会」の委員を努めるなど拘束のない介護に積極的に取り組んでいます。職員には言葉による苦痛にも気を配るよう指導しています。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の恐ろしさの理解を会議等で話し合っており理解されていると思うが、今後も常に確認して強化していきたい。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>スタッフ自身が内容の理解のための研修等を行い、深める必要性を感じている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>締結時及び解約に至るケース等においての話し合いは行われていると思われる。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族との意見交換等も行われていると思うが、今後はもっと頻度の必要性があると思われるし、運営推進会議等の場においても検討の機会としている。</p>	<p>家族との連絡は、電話で行われることが多いようです。家族の要望や連絡の内容は、「入居者連絡簿」に記録して施設長が確認しています。</p>	<p>家族へホームの情報が少ないようです。「ホームのお便り」等を定期的に発信する等、ホームでの利用者の様子を家族に伝えることに一層の工夫が期待されます。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議等の意見を十分に反映また対応出来るようにはしている。</p>	<p>職員会議には、全ての職員に出席を義務づけています。介護計画の作成にも全員の意見を聞いているなど、運営に職員の意見を反映させるよう努めています。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>昨年、就業規則の全面的見直しを行った。</p>	/	/
13		<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各スタッフに研修等の参加機会は与えていると思う。またスタッフ個々が自身も目的、目標を持っていく必要性も感じる。</p>	/	/
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>研修生の受入等や研修を通して他のホームとの交流等は出来始めてきている。</p>	/	/
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居間もない利用者に対しては、本人の特性等を捉えて親身になって受け入れているがまだまだ不十分なところもあり、今後の課題もある。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等を通して、日々の情報をお伝えしながら関係作りを行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護主任を含め、定期的な情報を収集して検討を重ねている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的には理解し関係作りには配慮しているつもりだが、まだまだ十分とはいえないように思われる。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に生活していく中で、相手の感情を受け止めながら関係作りに努めているが、今後も引き続き継続していきたい。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか難しい状況で十分にできているとは言い切れない。	重度の介護が必要な利用者が多いので難しいようですが、家族との墓参りや、家族への電話等に出来るだけの支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日その日の状態や状況において関係作りに配慮しているが、今後も一層の対応が必要と考えている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在も複数の利用者された家族との交流はある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしい生活が続けられるよう無理強いなどせず、思いや希望その人個々を把握して行っている。	帰宅願望のある利用者は、タクシーの手配をするなど一時帰宅を支援しています。また、希望する利用者の為に、講師を招いてお花のアレンジメント教室を開催しています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のプライバシーの問題等も配慮しながら、入居時に家族等から情報の把握は行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活も見極め、支援していくように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月おきに実施。気付きや意見、アイデアを出し合い作成している。</p>	<p>介護計画は、入居者一人ひとりについて、全ての職員が介護計画評価表の作成に参加し、介護計画を見直しています。すべての職員が話し合いチームとして、利用者の現状を介護計画に反映する仕組みがあります。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々の生活記録用紙に記載し、その内容等も基に計画の見直し等に役立てています。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の要求に対し、柔軟で臨機応変な対応が出来るようにしています。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域は必要性に応じては活用しているが、まだまだ十分とはいえない。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関等との関係を通して行っている。</p>	<p>かかりつけ医は入居時に本人や家族の同意を得て決められています。通院は職員が付き添う事が多く、場合によっては医療機関と連携し、胃ろう・透析・導尿への対応もしています。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ステーションとの連絡は柔軟に行えているし、適切な看護の提供はできていると思う。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院における病院との関係性はできているし、十分な情報等の提供、相談は行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療関係者を含めての話し合い等は出来ていると思うが、終末期ケア（ターミナル）までの段階まではいたっていない。</p>	<p>入居時に、事業所として可能な対応について説明し、実際に重度化した場合、本人や家族の意向を尊重し、医療機関と連携しながら支援しています。場合によっては医療機関と連携しながら点滴への対応もしています。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変、事故発生時も決してあわてず、確実に適切な対応が行えるように全体で統一している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害に備えて飲料水や食料などの物品を準備又は避難経路をしっかりと把握するようにしている。</p>	<p>近隣への協力依頼や災害時の避難経路についての検討しています。22年度に実際の避難訓練の実施を予定しています。また、非常時の室内放送設備や消防署への緊急通報設備の導入も22年度に予定しています。</p>	<p>災害に備えて非常食はありませんが、十分とは言えません。利用者の状況に合わせた医療用品や食糧等の備蓄の充実と消防署の協力を得ての避難訓練の実施が期待されます。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人として尊重することを全スタッフがプライバシーの確保、保護をしっかりと行っている。	一人ひとりをよく知り、それぞれに合わせた日常の過ごし方・言葉かけ、対応に努めています。また、表情やしぐさでのコミュニケーションも大切にしています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活していく上で、出来ること、出来ないことをしっかり見極めたうえで（表情や言葉、態度）決定できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側のペースではなく、あくまで入居者ペース、利用者が望んでいるペースに合わせた支援を常に心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面時、入浴時などに声掛けするように工夫し、本人の好みを尊重して理美容等を実施している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提供形態の見直し等を定期的にしつつ、目でも楽しめる食事や、一緒に食べる楽しみ、関係作りに取り組んでいる。	食材は配食サービスを利用し、職員が調理しています。利用者も一人ひとりの状況に合わせて準備や片付けを職員と一緒にしています。誕生会や行事を通して食事の楽しみを増す工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの偏り、水分不足が起こらないように職員全員が知識や意識をしっかりとって取り組んでいる。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、食後のケアの徹底など清潔保持に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンをしっかりと個々で把握し、失禁後のメンタルケア及びトイレでの排泄への支援並びに気持ちよく排泄していただけるように支援を行っている。	全利用者が一人ひとりの状況に合わせた内容のチェック表を使用しています。トイレへの誘導・失禁への対応は無理強いせず、周囲や羞恥心に配慮しながら、さりげない介助に努めています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因等を見極めて、なるべく薬等を使用せず自然排便の形を取るよう支援している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時に起こりうる様々な要因（羞恥心、不安感等）などをスタッフがしっかりと把握理解し、利用者に無理強いせず対応するように心掛けている。	基本は一日おきの入浴ですが、本人の希望や状況に合わせて、柔軟に対応しています。入浴時の異性介護は本人の了解を得て行います。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の流れのリズムを作り、環境を整えたり、ストレスの状態等も把握し、安定した睡眠が取れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬の目的や効用等をしっかり把握理解し、日常の配薬や記録などを行うように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみの提供や気分転換を図るなどの入居者が楽しめるよう配慮しながら支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人らしい生活を保ち本人の意欲や自立支援。生きがいにもなるための支援に心掛けている。	外出の困難な利用者が増えていますが、職員の支援により買い物に出かける利用者もいます。お墓参り、一時帰宅等も家族の協力を得て実施しています。	外出の困難な利用者が多い中で、外出希望がある方については利用者一人ひとりの現状に応じて少しでも外出の機会が増えるような工夫が期待されます。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者のみだが、家族などと相談しながら使用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な人との関係をつなぐ大切なこととして、プライバシーに配慮しながら支援していくように心掛けている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく過ごせるような環境整備を行い、居心地のよい環境を作っていくように努めている。	玄関には利用者の活けた花や春らしい装飾が飾られています。日中、ほとんどの利用者が居間で過ごされています。居間のテーブルは分散して置かれ、適度な距離感が保たれた落ち着いて、温かい雰囲気があります。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団生活の中の個別援助（一人になれる時間など）を提供できる工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使い慣れた物を持ち込んだり、落ち着いて過ごせるように努めている。	居室は安全に配慮しながら、一人ひとりの状況や希望にあわせて家具やテレビ・仏壇等が置かれています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に合わせた生活ができるような環境整備に心掛けている。		